

令和7年度 第2回地域連携推進会議 施設見学会 議事録

1. 開催概要と実施目的

「地域連携推進会議」の開催は、法令上の義務に留まらず、グループホームの運営透明性を担保し、地域共生社会を実現するための極めて重要な機会である。今回の施設見学会は、閉鎖的な印象を与えがちな福祉施設の内部を積極的に公開することで、地域住民やご家族の心理的障壁を取り払い、緊密な信頼関係を構築することを目的として実施した。

本会議の基本情報および参加者は以下の通り。

開催基本情報

項目	内容
開催日時	令和8年3月26日（木） 14:00 ～ 15:15
開催場所	医療法人報徳会 グループホームみなみ B・みなみ C
参加者 (外部)	地域自治会代表、同会 福祉協力委員 入所者家族代表、入所者代表 同法人医療機関 総合支援課
参加者 (施設側)	みなみ B：施設長、サービス管理責任者、世話人等 みなみ C：施設長、サービス管理責任者、世話人等

実施の狙い

地域住民や家族が実際の生活現場を直接視察することは、施設に対する「近寄り難さ」を「安心感」へと転換させる不可欠なプロセスとし、多職種（施設長、サビ管、看護師、介護職）が立ち会う「チームケア」の体制を可視化することで、専門性とホスピタリティの双方を直接伝えることを目指した。

2. 施設見学の実施プロセスと巡回内容

今回の訪問では、医療法人報徳会が運営する各ユニットの特色を提示し、「家庭的な居住空間」と「高度な介護・医療拠点」としての機能が明確かつ効率的に展開されているか検証された。

見学ルートの構成

見学は以下の順序で、各フロアの役割を明示しながら実施された。

- みなみ C：4階ホール→配膳室→事務所→居室→トイレ
- みなみ B2：3階事務所→ホール→配膳室→居室→介助浴室→2階居室
- 機械浴室（2階）：専用機械浴・脱衣場
- みなみ B1：2階ホール→居室→1階事務所→浴室→居室

設備・環境における注目ポイント

- 共有スペースの活気： ホールでの体操の様子など、活動的な日中活動。
- プライバシーの確保： 個人の尊厳を守る居室環境と、地域住民への配慮（前庭の植樹等）。
- 身体状況に応じた設備： 車椅子利用者が安全に入浴できる機械浴室の構造。

3. 質疑応答における対話の深化と信頼構築

質疑応答は、単なる情報提供ではなく、施設の運営理念や専門的配慮を地域社会へ周知することを目的とする。

テーマ別 Q&A

テーマ	質問内容 (Q) と回答 (A)
生活支援の工夫	Q: ホールの座席指定の理由は？ A: 入所者間のトラブルを予防し、精神的な安定を図るべく調整している。 Q: テレビ利用の自由度は？ A: ホールでは希望に応じ対応。居室での個人所有も可能としている。 Q: 入所者間のコミュニケーションは？ A: 意思疎通が困難な方には、必要に応じて職員が仲介するなど対応する。
人材活用と多文化共生	Q: 外国人介護スタッフとの意思疎通は？ A: 各自が日本語学校等で日本語を学んでおり、職員間および入所者とのコミュニケーションも非常にスムーズである。
安全管理の徹底	Q: 機械入浴の体制とリスク管理は？ A: 4～5名体制で対応。特に移乗時の転落防止に細心の注意を払い、入所者の性別と介護度などを考慮して職員配置している。
社会参加の現状	Q: 日中の過ごし方は？ A: 就労支援や通院・散歩・買い物(売店)等を実施。 個人や職員同伴で近隣ショッピングセンターへ買い物に外出している。

信頼構築へのアプローチ

施設側が「入所者間の仲介の難しさ」や「介助における危機意識」といった、現場での重要課題を共有することで「リスクを適切に管理している」という信頼感に繋がった。

4. 参加者による評価とフィードバックの分析

多様なステークホルダーによる外部評価は、サービスの質を客観的に検証する「外部監査」としての機能を果たす。

ステークホルダー別意見

- 自治会関係者：

- **環境心理**： 4階の景観を評価しつつ、観葉植物等での彩り追加を提案。
- **多様性**： 外国人スタッフの流暢な日本語と明るい笑顔、入所者との温かい関わりに深く感銘。
- **安全対策**： 介助浴室の浴槽が深めである点に注目。手すりの増設を具体的要望として提示。
- **プライバシー管理**： 入浴時への職員配置、前庭の植樹(甘夏の木など)が宅地側からの視線を遮る目隠し(リスク管理)としての機能と、収穫という「入所者の楽しみ」を両立させている点を高く評価。
- **施設側**： 次年度、自治会イベント等への積極的参加を通じた地域参加への意欲。
- **家族・入所者**： 実際の良い生活環境を確認できたことへの安堵と満足。

意識の変化：「ソーシャル・プルーフ（社会的証明）」のインパクト

自治会側から「見学前は近寄り難いと感じていたが、職員や入所者の明るい表情や関わりを見て、良い意味で印象が大きく変わった」との評価が得られたことは、施設内において入所者の生活に対し「質の高いケア」が提供されていることの社会的証明となり、地域連携における心理的障壁の払拭に貢献した。

5. 今後のグループホーム運営における課題と対策

会議での知見を基に、より良い生活支援と地域連携を継続するための展望をまとめる。

① 環境改善と安全性の向上（CAPA：是正・予防処置）

- **課題**： 介助浴室における転倒・転落リスクの最小化。
- **対策**： 指摘のあった「手すりの増設」を最優先事項として検討。あわせて、入浴時の多人数配置体制を維持し、物理・人的両面から安全性を強化する。

② 生活の質（QOL）と環境心理への配慮

- **課題**： 施設特有の「無機質さ」の解消と潤いの提供。
- **対策**： ホールへの観葉植物の設置。植物による環境改善は、入所者のストレス緩和と「生活の場」としての彩りを生む重要な環境介入となる。

③ 地域共生と協力体制の深化

- **課題**： 「地域に開かれた施設」の定着と相互交流のシステム化。
- **対策**： 自治会行事へ積極的に参加。次年度会議の早期日程調整（11月中旬以降）を行い、自治会カレンダーと連動した「共同調整プロトコル」を検討、調整する。

開かれた福祉の意義

これらの対策は単なる設備改修ではなく、地域の声を反映させるプロセス自体が、地域全体で入所者を支える「開かれた福祉」のモデルを構築する。地域との良好な関係性は、災害時の協力体制や人材確保の面でも、将来的に大きな社会的資産となり得る。

6. 次年度の計画

次回開催予定： 令和8年度 地域連携推進会議については、自治会の年間行事スケジュールを優先的に尊重し、**11月中旬以降**で具体的な日程調整を進めるものとする。

その他、自治会のイベント(敬老会や福祉まつり、スポーツ大会など)への施設側からの参加も検討するなど、今後も地域社会との緊密な連携を維持し、入所者の皆様が安心して自分らしく暮らせる環境づくりを目指すこととした。